

François-Xavier Roth,
Gürzenich-Kapellmeister / General Music Director

Japan Tour 2022

GÜRZENICH ORCHESTER KÖLN

ケルン・ギュルツェニヒ管弦楽団
指揮 / 音楽総監督: フランソワ=グザヴィエ・ロト

2022年 日本公演

フランス＝グザヴィエ・ロト指揮 ケルン・ギュルツェニヒ管弦楽団

2022年 日本公演

Gürzenich Orchester Köln

François-Xavier Roth, Gürzenich-Kapellmeister / General Music Director
Japan Tour 2022

GÜRZENICH
ORCHESTER
KÖLN

7月2日(土)19:15 川崎 ミューザ川崎シンフォニーホール
July 2 Sat. 19:15 Kawasaki Muza Kawasaki Symphony Hall

7月4日(月)19:00 東京 サントリーホール
July 4 Mon. 19:00 Tokyo Suntory Hall

ベートーヴェン：「レオノーレ」序曲 第3番 Op.72b

L. v. Beethoven: Leonore Overture No.3, Op.72b

サン=サーンス：ヴァイオリン協奏曲 第3番 口短調 Op.61(ヴァイオリン:樫本大進)
C. Saint-Saëns: Violin Concerto No.3 in B minor, Op.61 (Violin: Daishin Kashimoto)

第1楽章:アレグロ・ノン・トロッポ 1st Mov.: Allegro non troppo
第2楽章:アンダンティーノ・クワジ・アレグレット 2nd Mov.: Andantino quasi allegretto
第3楽章:モルト・モデラート・エ・マエストoso 3rd Mov.: Molto moderato e maestoso
— アレグロ・ノン・トロッポ — Allegro non troppo

シューマン：交響曲 第3番 変ホ長調 Op.97「ライン」

R. Schumann: Symphony No.3 in E-flat major, Op.97 "Rhenish"

第1楽章:生き生きと 1st Mov.: Lebhaft
第2楽章:スケルツォ、きわめて中庸に 2nd Mov.: Scherzo. Sehr mäßig
第3楽章:急がずに 3rd Mov.: Nicht schnell
第4楽章:厳かに 4th Mov.: Feierlich
第5楽章:生き生きと 5th Mov.: Lebhaft



文化庁
子供文化芸術活動支援事業

主催:ジャパン・アーツ 協賛: MEDIHEAL

協力:ソニー・ミュージックジャパン、キングインターナショナル

フランス＝グザヴィエ・ロト指揮 ケルン・ギュルツェニヒ管弦楽団 2022日本公演

7月2日(土)川崎 ミューザ川崎シンフォニーホール 主催:ジャパン・アーツ ☆

7月3日(日)東京 東京オペラシティコンサートホール 主催:公益財団法人 東京オペラシティ文化財団 ★

7月4日(月)東京 サントリーホール 主催:ジャパン・アーツ ☆

7月5日(火)赤穂 赤穂市文化会館 主催:(公財)赤穂市文化とみどり財団 ☆

☆ヴァイオリン:樫本大進 ★ピアノ:河村尚子

Profiles



フランス＝グザヴィエ・ロト
(指揮／音楽総監督)

François-Xavier Roth,
Gürzenich-Kapellmeister / General Music Director

フランス＝グザヴィエ・ロトは、2015年よりギュルツェニヒ・カペルマイスター及びケルン市の音楽総監督を務める、現代でも最も興味深く、引く手あまたの指揮者のひとりである。クラシック音楽のあらゆる分野に造詣が深く、そのカリスマ性と内に秘めた強い信念で、国際的な音楽シーンを活性化させている。彼が指揮するプログラムは、どれも想像力とエネルギーに溢れ、新たな発見に充ちている。ロトは、ギュルツェニヒ管弦楽団の素晴らしい伝統を受け継ぎ、大切に育みながら、現代音楽への懸け橋ともなって、確かなクオリティで音楽を発信し続けており、ゲオルク・フリー

ドリヒ・ハース、フィリップ・マヌリ、マルティン・マタロンといった現

代の著名な作曲家たちの多数の作品が彼の指揮で初演されている。ギュルツェニヒ管のプロジェクト「ファンファーレ・フォー・ア・ニュー・ビギニング」は、ロトの数ある取り組みのひとつで、このパンデミックの最中、10人の名作曲家に管楽器のための小品を委嘱し、文化の停滞する時期に心に響く意思表示をしてみせた。

音楽への簡潔明瞭で真っ直ぐなアプローチと、本物へのこだわりのために努力し続けるロトは、世界中で高い評価を得ている。また、ベルリン・フィル、ベルリン・シュターツカペレ、ロイヤル・コンセルトヘボウ管、クリーヴランド管、バイエルン放送響、ミュンヘン・フィル、チューリッヒ・トーンハレ管などの著名なオーケストラと定期的に共演。2017/18年シーズンには、ロンドン交響楽団の首席客演指揮者とフィルハーモニー・ドゥ・パリのアソシエイト・アーティストに任命された。

2003年には、レパートリーに応じてその時代に合ったモダンもしくはピリオド楽器を用いて革新的なプログラムに取り組むオーケストラ「レ・シエクル」を創設し、ヨーロッパ中のみならず、中国や日本でもコンサートを行っている。

ロトにとって次世代の音楽家の育成は心からの関心事であり、意欲的な若い作曲家たちに場を提供するロンドン響の「パヌフニク・ヤング・コンポーザーズ・スキーム」のディレクターを務めている。ギュルツェニヒ管とも、彼の主導により発足した国際的なプロジェクト「モメンタム」や、同楽団のアカデミーにて、若い才能ある音楽家たちをサポートしている。

ロトは録音においても膨大なディスコグラフィを作りあげており、数々の著名な賞を受賞。ギュルツェニヒ管とのCD『マーラー：交響曲第3番・5番』や『シューマン：交響曲第1番・4番』の録音も賞賛を博している。最新のリリースは、R.シュトラウスの交響詩を収録したCDで、ギュルツェニヒ管の現在のアーティスト・イン・レジデンスを務めるチェリストのジャン=ギアン・ケラスも共演している。

ロトは音楽家、指揮者、教師としての功績を称えられ、フランス大統領からレジオン・ドヌール勲章シュバリエを受章している。



François-Xavier Roth,
Gürzenich-Kapellmeister/General Music Director



© Holger Talinski

ケルン・ギュルツェニヒ管弦楽団

Gürzenich Orchester Köln

ケルンに深く根ざしながら世界に開かれたギュルツェニヒ管弦楽団は、流行を作り出す解釈、革新的な演出、コンサート・ホールを超えた多彩な提供を旨としている。コンサートとオペラの両方をレパートリーに持ち、ドイツの一流オーケストラのひとつに数えられているが、その音楽作りの歴史の伝統に並ぶ者はない。

ギュルツェニヒ管は1827年に「コンサート会社」によって設立されたが、その起源はケルンの中世の音楽習慣にさかのぼる。1888年以来、ギュルツェニヒ管は一貫してケルン市のオーケストラであり、各シーズン約50回のコンサートでは、100,000人以上の熱心な音楽ファンをケルン・フィルハーモニーに迎えている。また、ケルン・オペラのオーケストラとして毎シーズン約160公演を行っている。

2015/16年シーズンよりフランソワ・グザヴィエ・ロトが、ギュルツェニヒ・カペルマイスター兼ケルン市の総音楽監督を務めている。この地位には、フェルディナント・ヒラー(1850~1884)、フランツ・ヴュルナー(1884~1902)、桂冠指揮者のギュンター・ヴァント、ドミニトリ・キタエンコ、さらに1986年からの首席指揮者であるマレク・ヤノフスキ、ジェームズ・コンロン、マルクス・シュテンツといった著名な前任者がいる。

ギュルツェニヒ管は誇りを持って偉大な過去を振り返り、生ける伝統としてその歴史を伝えるべく意欲的な活動を行っている。ヨハネス・ブラームス、リヒャルト・シュトラウス、グスタフ・マーラーによるロマン派のレパートリーの複数の名曲が同楽団によって初演された。今日、この偉大な遺産は、勇気と想像力を持って伝統を革新的に解釈し、我々の時代の音楽との懸け橋を築くべく、同楽団の約130人の楽団員と指揮者を鼓舞している。ここでもギュルツェニヒ管は、主な世界初演の印象的なリストを挙げることができる。聴衆を新しい音楽の道を探索し続けるよう誘いつつ、同楽団は常に新しい道を探し続けている。

ギュルツェニヒ管はあらゆる人々のオーケストラである。クラシックのコンサート・ホールから躊躇なく飛び出し、社会の真ん中でそこにいる人々に感動を与える。これもまた同団の使命のひとつである。高齢者住宅や幼稚園でのコンサート、ワークショップ、学校公演、ファミリー・カードやケルン市民オーケストラ等の提供は、さまざまな団体の音楽に対する情熱を搔き立て、音楽を通して人々の暮らしを豊かにすることを目的としている。ライブストリーム・シリーズGOプラス、ポッドキャスト、ビデオによって、同楽団はデジタルでも強い存在感を示している。また複数の賞を獲得したCDによって、世界中のファンがこのケルン市のユニークな文化大使の演奏に触れることができる。



Gürzenich Orchester Köln



© Keita Osada (Ossa Mondo A&D)

樺本 大進 (ヴァイオリン)
Daishin Kashimoto, Violin

ロンドン生まれ。1990年、第4回バッハ・ジュニア音楽コンクールでの第1位を皮切りに、1996年のフリット・クライスラー、ロン=ティボーの両国際音楽コンクールでの第1位など、5つの権威ある国際コンクールにて優勝。ドイツを拠点にソリストとして世界の舞台で演奏する傍ら、2010

年に正式就任したベルリン・フィルハーモニー管弦楽団第1コンサートマスターを務める。
3歳よりヴァイオリンを恵藤久美子に学ぶ。5歳でNYに転居し、7歳でジュリアード音楽院プレカレッジに入学、田中直子に師事。11歳の時、名教授ザハール・ブロンに招かれリューベックに留学。20歳よりフライブルク音楽院でライナー・クスマウルに師事、グスタフ・シェック賞を受賞し修士課程を修了した。

これまで、ロレン・マゼール、小澤征爾、マリス・ヤンソンス、チョン・ミョンファン、パー・ヴォ・ヤルヴィなどの著名指揮者ののもと、国内外のオーケストラと共に演奏を重ねるほか、室内楽にも意欲的に取り組み、マルタ・アルゲリッチ、ギドン・クレーメル、ユーリ・バシュメット、ミッシャ・マイスキ、エマニュエル・パユ、ポール・メイエなどの著名ソリストと共演。

2007年からは、自身が音楽監督となり兵庫県赤穂市・姫路市を舞台に室内楽の国際音楽祭「ル・ポン(Le Pont)」を開始。フランス語で「架け橋」の意を持つ名前を冠する本音楽祭は、「音楽を架け橋に、人と人のきずなを大切にし、平和で幸せな世界を創りたい」という樺本の願いを受けて開催され、彼の声がけで世界一流の音楽家が毎秋参加し話題を呼んでいる。

2010年、日本人として史上2人目のベルリン・フィルハーモニー管弦楽団第1コンサートマスターに正式就任以来、オーケストラの顔として活動しているほか、本拠地ベルリンでの定期演奏会やヨーロッパ、アジア・ツアーでの演奏会などでソリストとしても共演している。

主なCDに、2014年にワーナー・クラシックスから世界リリースもされた、コンスタンチン・リフシツとの「ベートーヴェン：ヴァイオリン・ソナタ全集」など。TBS「情熱大陸」、NHK「プロフェッショナル～仕事の流儀」ほか、多くのメディアに取り上げられ、クラシック音楽の最高峰で活躍するヴァイオリニストとして常に注目を浴びている。

1995年アリオン音楽賞、1997年出光音楽賞、モービル音楽賞、1998年新日鉄音楽賞フレッシュアーチスト賞、平成9年度芸術選奨文部大臣新人賞、2011年兵庫県文化賞、チェンジメーカー2011クリエーター部門、2017年姫路市芸術文化大賞、ドイツに於いてはシュタインゲンベルガー賞、ダヴィドフ賞を受賞。2019年12月より、HiFiオーディオ製品ブランド「VELVET SOUND」(旭化成エレクトロニクス)公式アンバサダー。

使用楽器は、株式会社飛鳥(志村晶代表取締役)から貸与されている1744年製デル・ジュス「ド・ペリオ」。



Daishin Kashimoto, Violin

世界のオーケストラ界で今最も熱い視線が注がれている指揮者フランソワ=グザヴィエ・ロト。作品の初演時の響きを求めてやまない彼は、ピリオド楽器のオーケストラ「レ・シエクル」を自ら創設して自身の理想を実現させてきた。歴史の中で固定化されてきた作品像を白紙に戻し、曲が生れた時代への鋭い考察とスコアの徹底的な見直しを行いつつ、どんな細部までも疎かにしない綿密な造型でもって、作品を新鮮に蘇らせる彼の指揮は、今日の演奏界に大きなインパクトを与えている。

そうしたロトの姿勢はモダン・オケを振る時も変わることがない。ベルリン・フィルをはじめ世界中の名門オケから引っ張りだこの彼だが、とりわけ2015年からシェフを務めているケルン・ギュルツェニヒ管弦楽団は、彼の意図を理想的に具現化するオケであり、そのことは最近立て続けにリリースされているCDを聴いても明らかだろう。1827年創設という老舗で、ブームスやマーラーなどの作品の初演も多数行ってきたこのオケは、かつてはギュンター・ヴァントが長らく音楽監督を務めるなど、まさにドイツの音楽史の一端を担ってきた伝統の楽団だ。ロトはそうした伝統を踏まえつつ、そこにピリオド的なアプローチ(いわゆるHIP)という新たな風を吹き込んで、この楽団に新時代をもたらしている。本日、ケルンゆかりのシューマンの「ライン」を含むプログラムでこのコンビがいかにその真価を発揮してくれるか、楽しみでならない。

もうひとつ注目したいのが樺本大進との共演である。ソリストとしての彼の音樂性はロトとはやや方向が異なるかもしれないが、だからこそ今回の共演でどのような化学反応が引き起こされるか、とても興味深いものがある。丁々発止の名演が期待できそうだ。

■ ベートーヴェン:「レオノーレ」序曲 第3番 Op.72b ■

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン(1770–1827)が残した唯一のオペラ「フィデリオ」(最終稿の完成は1814年)が、当初は「レオノーレ」と題され、長年にわたる度重なる改訂の末に現行の形になったことはよく知られている。その改訂の度に彼は序曲を書いていたが、この「レオノーレ」序曲第3番は1806年のオペラ第2稿用に作られたもので、このオペラのために書かれた4つの序曲の中では最も規模が大きく、夫婦愛を通して自由、正義、人間性の解放を描いた劇の内容を、ソナタ形式のうちにオペラ中の旋律を主題に用いて交響詩風に表現している。展開部の頂点で舞台裏から鳴り響くトランペットの旋律は、オペラの中では大臣到着を告げる信号ラッパの旋律で、これを機に危機に立たされていた夫婦が救われ、正義の勝利へと物語が向かっていくことになるという重要な意味合いを持っている。勝利を謳い上げるコーダの盛り上がりも圧巻だ。

■ サン=サーンス:ヴァイオリン協奏曲 第3番 ロ短調 Op.61 ■

フランスの作曲家カミーユ・サン=サーンス(1835–1921)がスペインの大ヴァイオリニストのサラーテのために1880年に作曲したこの作品は、ラロの「スペイン交響曲」と並ぶ19世紀フランスの代表的なヴァイオリン協奏曲である。均齊のとれた明快な構成のうちに協奏曲に相応しい華やかさとロマンティックな叙情を湛えた作品で、充分にヴァイオリンの技巧性を生かしながらも、決して名技の見せびらかしに陥ることのない趣味のよさと充実した音樂性を備えている点、いかにもサン=サーンスらしい名品といえるだろう。

第1楽章(アレグロ・ノン・トロッポ)は雄弁な第1主題とロマン的な憧憬に満ちた第2主題による自由なソナタ形式をとる。**第2楽章**(アンダンティーノ・クワジ・アレグレット)は舟歌風の主題を持つ叙情美溢れる間奏曲風の緩徐楽章。カデンツァ風の序奏に始まる**第3楽章**(モルト・モデラート・エ・マエストリーゾ～アレグロ・ノン・トロッポ)では名人芸も生かされつつ協奏曲のフィナーレに相応しい華麗かつ多彩な発展が繰り広げられる。

■ シューマン:交響曲 第3番 変ホ長調 Op.97「ライン」 ■

ドイツ・ロマン派を代表する作曲家ロベルト・シューマン(1810–56)は1850年9月デュッセルドルフ市の音楽監督に着任した。精神的な病を抱えていた彼は、当初音楽監督を引き受けたことにためらいもあったようだが、自分のオーケストラを得たことやライン河に臨むこの町での生活といった環境の変化によって創作意欲は高まり、特に着任後ほどなくすぐ南のケルンを訪れたことが直接の刺激となって、11月初めから1ヶ月あまりのうちに新しい交響曲を書き上げる。それが、彼自身「ライン地方の生活の情景」と呼び、「民衆的な要素に支配されている」とも述べているこの交響曲第3番である(ただし「ライン」という曲題は彼自身によるものでない)。とはいってもラインの情景を描寫的に描いた作品ではなく、ライン地方での新生活に喜びを見いだした当時の自身の心の表現というべき交響曲であり、内向きの翳りのある作風が顕著である後期のシューマンの作品の中では、際立って明るい生命感に満ちた曲となっている。当初は通常の4つの楽章を持つ交響曲として書き進められたが、ほぼ全体が出来上がりつつあった頃、ケルンのドームで大司教ガイセルの枢機卿昇任式が執り行われたことを知り、厳粛な儀式を思わせる間奏風の音樂を第4楽章として追加して5楽章構成の交響曲となった。

第1楽章(生き生きと)は力感に満ちた第1主題に始まるソナタ形式。憂愁味を持つ第2主題は特に展開部で翳りを作り出しが、全体的には明るい生気の漲る楽章である。**第2楽章**(スケルツォ、きわめて中庸には)スケルツォと記されているが、性格的にはレントラー風の伸びやかな気分が支配している。**第3楽章**(急がずに)は穏やかでロマンティックな間奏曲。**第4楽章**(厳かに)は、前述のようにケルンの大聖堂で行われた大司教の枢機卿叙任式に関わる莊重な樂章で、シューマン自身自筆譜に「莊厳な儀式の性格で」と記している。**第5楽章**(生き生きと)は喜ばしい高揚感に満ちたソナタ形式のフィナーレである。

Gürzenich Orchester Köln

François-Xavier Roth, Gürzenich-Kapellmeister / General Music Director

Japan Tour 2022

1st Violin

Natalie Chee
Henry Flory*
Chieko Yoshioka-Sallmon
Rose Kaufmann
Demetrius Polyzoides
Elisabeth Polyzoides
Judith Ruthenberg
Petra Hiemeyer
Juta Őunapuu-Mocanita
Nikolai Amann
Valentin Ungureanu
Marina Rodríguez**
Jacob Ormaza Vera*

2nd Violin

Sergey Khvorostukhin
Choha Kim*
Will Grigg
Elizabeth Macintosh
Susanne Lang
Hae-jin Lee
Anna van der Merwe
Hye-Bin Kim
Marina Geldsetzer
Tamila Kharambura
Ayane Okabe**

Viola

Nathan Braude
Gueli Kim
Martina Horejsi-Kiefer
Bruno Toebrock
Gerhard Dierig
Annegret Klingel
Ina Richartz

Eva-Maria Wilms

Rudi Winkler

Violoncello

Ulrike Schäfer

Jee-Hye Bae

Klaus-Christoph Kellner

Daniel Raabe

Sylvia Borg-Bujanowski

Katharina Apel-Hülshoff

Julian Bachmann

Doublebass

Christian Geldsetzer

Konstantin Krell

Jason Witjas-Evans

Leopold Rucker**

Christof Weinig*

Daniel López Giménez*

Flute

Alja Veltkaverh-Roskams

Paolo Ferraris

Yi-Ju Lin

Oboe

Tom Owen

Sebastian Poyault

Ikuko Homma

Clarinet

Oliver Schwarz

Thomas Adamsky

Andreas Oberaigner*

Bassoon

Anna Ernst

Paulo Ferreira

Victor König**

Horn

Egon Hellrung

Konstantin Becker*

Willy Bessems

Andreas Jakobs

Jens Kreuter

David Neuhoff

Trumpet

Bruno Feldkircher

Klaus v. d. Weiden

Daniel Albrecht*

Trombone

Pedro Olite Hernando

Carsten Luz

Markus Lenzing

Christoph Schwarz

Timpani

Robert Schäfer

Christian Stier*

* = Guests

** = Orchestra Academy

ロト&ケルン・ギュルツェニヒ管のCD 絶賛発売中

● harmonia mundi myrios classics



最新盤
ブルックナー：
交響曲第7番ホ長調
(ノヴァーク版/2003年第3改訂版)
■KKC 6449(CD) [日本語解説付]
¥3,300(税込)
録音：2019年12月



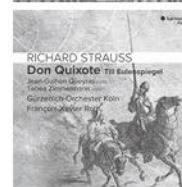
シューマン：交響曲集
①第1番変ロ長調Op.38「春」
②第4番二短調Op.120(1841年初稿)
■KKC 6265 (SACD Hybrid) [日本語解説付]
¥3,300(税込)
録音：2018年12月②、2019年6月①



マーラー：
交響曲第3番ニ短調
サラ・ミンガード(コントラルト)
スコラ・ハイデルベルク女声合唱団
ケルン大聖堂児童合唱隊
■KKC 5999 (2CD) [日本語解説付]
¥3,300(税込)
録音：2018年10月



マーラー：
交響曲第5番 嬰ハ短調
■KKC 5842 (CD) [日本語解説付]
¥3,300(税込)
録音：2017年2月



2021年度第59回レコード・アカデミー賞 管弦楽曲部門
リヒャルト・シュトラウス：
①交響詩「ドン・キホーテ」Op.35
②交響詩「ティル・オインシュピーゲル」の愉快ないたずら」Op.28
③ロマンス(1883)～エロコと管弦楽のための
ジャン=ギアン・ケラス(エロコ)①③
タペア・ツィンマーマン(ヴィオラ)①
■KKC 6417 (CD) [日本語解説付]／¥3,300(税込)
録音：2019年1、2、7月

ロトのCD情報は
こちら！

輸入・販売元／株式会社キングインターナショナル TEL : 03-3945-2333 <https://www.kinginternational.co.jp>

樫本大進の至芸

Sony Music Japan International



DAISHINデビュー！



プロコフィエフ：ヴァイオリン・ソナタ第2番
ベートーヴェン：ヴァイオリン・ソナタ第5番「春」
武満徹：悲歌

【演奏】樫本大進（ヴァイオリン）
イタマール・ゴラン（ピアノ）
【録音】1999年
CD ● SRCR2413
¥2,400+税

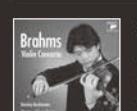


ブランク：ヴァイオリン・ソナタ
グリーグ：ヴァイオリン・ソナタ第3番
フランク：ヴァイオリン・ソナタ

【演奏】樫本大進（ヴァイオリン）
イタマール・ゴラン（ピアノ）
【録音】2001年
CD ● SRCR2730
¥2,400+税



ベートーヴェン：ヴァイオリン・ソナタ第5番「春」
フランク：ヴァイオリン・ソナタ
【演奏】樫本大進（ヴァイオリン）
イタマール・ゴラン（ピアノ）
【録音】1999年／2001年
CD ● SICC323
¥1,600+税



Brahms
Violin Concerto
【演奏】樫本大進（ヴァイオリン）
チョン・ミョンファン指揮 シュターツカペレ・ドレスデン
【録音】2006年11月5日-7日 ドレスデン・ゼンバーバー（ライヴ）
CD ● SICC40099 極HiFi CD
¥1,600+税



ARTIST SUPPORT

演奏家の活動をご支援いただくアーティストサポートに、これまで多くのお気持ちを寄せていだきましたことに、心から御礼申し上げます。

「人のいるところには夢がいる。」創業46年来にわたるジャパン・アーツのモットーです。

音楽・舞台芸術、そしてそこから生まれる感動は、人々に夢・希望・生きる力を与えてくれます。

アーティストサポートに寄せられたご支援は、安全・安心な公演運営、

オンライン配信など新しい取り組みなどに活用させていただいております。

これまでの活動レポートをホームページに掲載しておりますので、ご覧いただけましたら幸いです。

引き続きのご支援を改めてお願ひ申し上げます。



ご支援をいただいた個人ならびに企業・団体の皆さん

J.A.	M.O.	K.佐藤	K.N.	見澤礼子
F.A.	落合大輔	澤田直隆	Y.N.	三橋祐太
穴田敦子	Y.O.	N.S.	T.N.	S.M.
阿部紀子	風早信子	C.S.	K.N.	宮崎恵津子
Y.A.	H.K.	T.S.	野原千裕	村岡加代
T.I.	片川弘一	菅谷智子	野本由美子	N.M.
Y.I.	片山由美子	T.J.	橋本美恵子	M.M.
池田俊也	加藤和子	A.S.	E.H.	森口瑛子
石井登	加藤正博	K.S.	Y.H.	K.M.
A.I.	加藤智也	鈴木哲治	花岡綾美	森元伸一
イシカワトモコ	鎌倉文	関智子	A.H.	N.M.
石橋友佳子	M.K.	瀬戸陽子	林知江	Y.Y.
K.I.	川端久子	染野純子	林朋子	山崎きぎく
伊藤孝	河村はるみ	高橋仁子	原田龍一	山下ひろみ
今井良成	菊地暁子	高橋雪代	久水勝人	山本一葉
Y.I.	岸本由佳	S.T.	檜作美穂子	K.Y.
N.I.	北潤喜樹	伊達朱美	N.H.	横山恵子
岩崎安宏	M.K.	田中貴恵子	平井通宏・ヤドヴィガ	吉田幸弘
宇井基泰	北村則子	R.T.	N.H.	吉本結妃名
魏爬爬	T.K.	田中真由子	M.H.	若林薰
上田あつ子	木村ひとみ	津田玲子	E.F.	渡部伸子
上田まさみ	木村美明	土屋涼子	藤島秀憲	R.W
植原由起子	見目朋子	手塚静枝	船木信代	O.S
上村憲裕	栗城理一	手塚ゆみ	古澤知広	株式会社 MARUWA
丑屋萌	後藤いづみ	M.T.	星野宏美	株式会社
内田さおり	後藤実	トウルーラブ真智子	穂積伸一郎	ソーシャルキャビタル
内山賀子	小林和男	徳田京子	細沼康子	マネジメント
M.U.	小室秀夫	苦米地英人	堀田千佳	日本バデレフスキ協会
A.E	西條美佐	H.T.	堀井瑞紀	淡路
遠藤太加根	斎田孝	中熊千香	松井恵子	鈴木整形外科
大口陽子	K.S.	中澤真人	松田香	
太田信之	M.S.	中坪大輔	松谷まゆみ	
K.O.	佐竹裕子	中野和枝	M.M.	
S.O.	T.S.	中村美穂	三上美智恵	
小田島容子	佐藤直子	七澤聰子	三木陽子	[匿名希望:215名様]

2022年5月31日現在 ※五十音順／敬称略 匿名ご希望の方は記載しておりません

ご支援についての詳しい内容は、 株式会社ジャパン・アーツ

お気軽にお問い合わせください。 アーティストサポート係 TEL.03-3499-7720(平日11:00~17:00 年末年始を除く)